

令和5年度品川区立学校における体罰等の実態把握について

1 概要

(1) 趣旨

体罰および体罰の疑いがある事例を見逃さずに迅速に対応するため、品川区立学校における実態を的確に把握する。(東京都教育委員会が全区市町村を対象に児童・生徒向け「相談シート」の配布等を依頼)

(2) 対象

品川区立小学校37校、中学校15校の校長、教職員、児童・生徒

※小学校には義務教育学校の前期課程を含む。また、中学校には義務教育学校の後期課程を含む。以下、同じ。

(3) 内容

体罰、不適切な指導、行き過ぎた指導および暴言等(以下「体罰等」という。)、またはその疑いのある事案の実態

(4) 方法

第三者相談窓口(東京都教育委員会が設置)等へ寄せられた相談内容の集約

(5) 対象期間

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

※「相談シート」は令和5年7月7日から令和5年8月31日までの間および、令和5年12月1日から令和5年12月28日までの間にそれぞれ配布

2 体罰等の状況

(1) 行為者数 校種別内訳

	小学校	中学校	合 計
体罰	0人	0人	0人
不適切な指導 行き過ぎた指導	8人	3人	11人
暴言等	1人	1人	2人

(2) 行為者数 年代別内訳

	20代	30代	40代	50代	60代以上
体罰	0人	0人	0人	0人	0人
不適切な指導 行き過ぎた指導	1人	3人	3人	2人	2人
暴言等	0人	0人	2人	0人	0人

【分類例】・不適切な指導 手をはたく(しっぺ)、おでこを弾く(デコピン)、小突く、拳骨で押す、襟首をつかんで連れだす、などの行為

・行き過ぎた指導 目的は誤っていないが、その指導内容・方法等が児童・生徒の発育・発達や心身の現況に適合していない指導など

・暴言等 罵る、脅かす、威嚇する、人格(身体・能力・性格・風貌等)を否定する、集中的に批判する、などの行為

(3) 事案例

<不適切な指導>

- ・廊下から出た生徒を教室に戻すために生徒の髪をつまんだ。

<暴言等>

- ・夏祭りの時に、ボランティアに参加していた生徒に「お前早くやれって言ってんだよ」と罵声を大声で浴びせた。

3 体罰の根絶を図るための取組

(1) 学校への指導

- ①体罰根絶を徹底するよう教育長名の通知の発出
- ②毎月の校長連絡会等における服務事故防止に向けた具体的な指導の実施

(2) 学校組織としての意識向上

- ①学校組織全体として体罰の根絶に取り組むよう、教職員でスローガンを考え「体罰根絶宣言ポスター」に記入し、職員室および学校ホームページに掲出
- ②管理職による服務（体罰等）に関するヒアリングの実施
- ③「暴力・暴言 しない、させない、許さない」のミニチュアのぼりを職員室や玄関等、教員や保護者が目にする場所に設置
- ④服務事故防止月間における校内研修およびセルフチェックの実施

(3) 教職員研修の充実

新任・転任者研修、1年次（初任者）研修、2年次研修、中堅教諭等資質向上研修、生活指導主任研修、校長研修会等で「体罰根絶」「服務事故防止」の徹底を指導

(4) 通報システムの活用・周知徹底

- ①目安箱、教委直通電話、アイシグナル（携帯電話、PCによる連絡手段）の活用
- ②保護者、地域への周知（リーフレット、家庭向け通信の配布）
- ③いつでも不安や悩みを相談できる窓口を紹介した相談シートの配布

(5) 体罰根絶DVD「STOP体罰」の活用の促進

各学校において東京都教育委員会が作成した体罰根絶DVD「STOP体罰」の活用を促進

(6) 学校における体罰防止に向けた取り組みの強化

各校が独自に体罰防止の取り組みを策定・実施し、取組内容を教育委員会へ報告

<取組事例>

- ・コンプライアンスリーダーを指名し、コンプライアンス委員会を組織したうえで服務事故防止に向けた実践行動を促進させることにより、服務規律遵守意識の底上げを図っている。
- ・「サービスチェックシート」による自己チェック、校内チェックを毎週末に実施し、管理職による確認やフィードバックを行っている。教員の服務事故防止への意識が高まり、教員同士の声掛けやヒヤリハットへの指摘などが増加している。
- ・職員会議等で資料を用いて新聞報道等の内容を伝え、どうすれば事故を防げるか考える機会を設けることで、服務事故を自分ごととして捉えさせ、教員の服務規律への高い意識を継続できるようにしている。